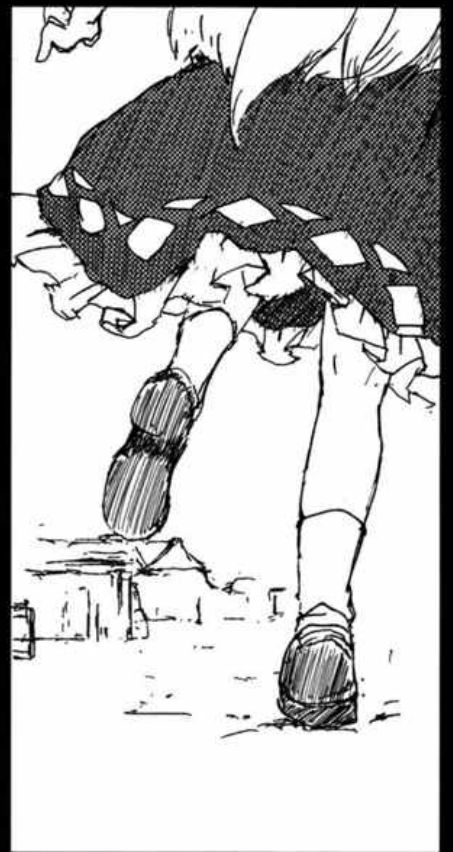
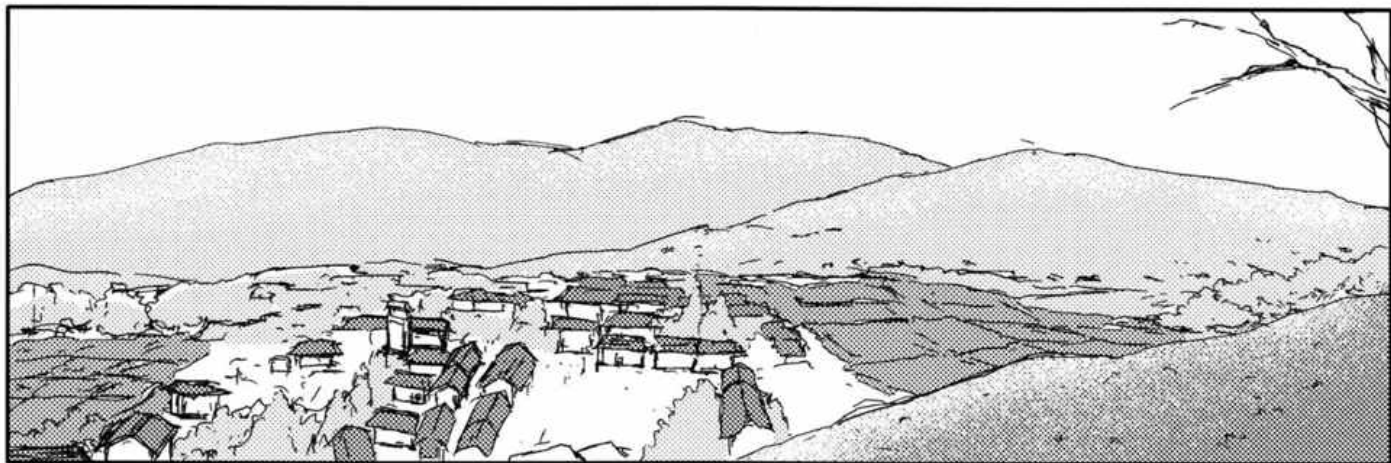


身影
あ
ま
し



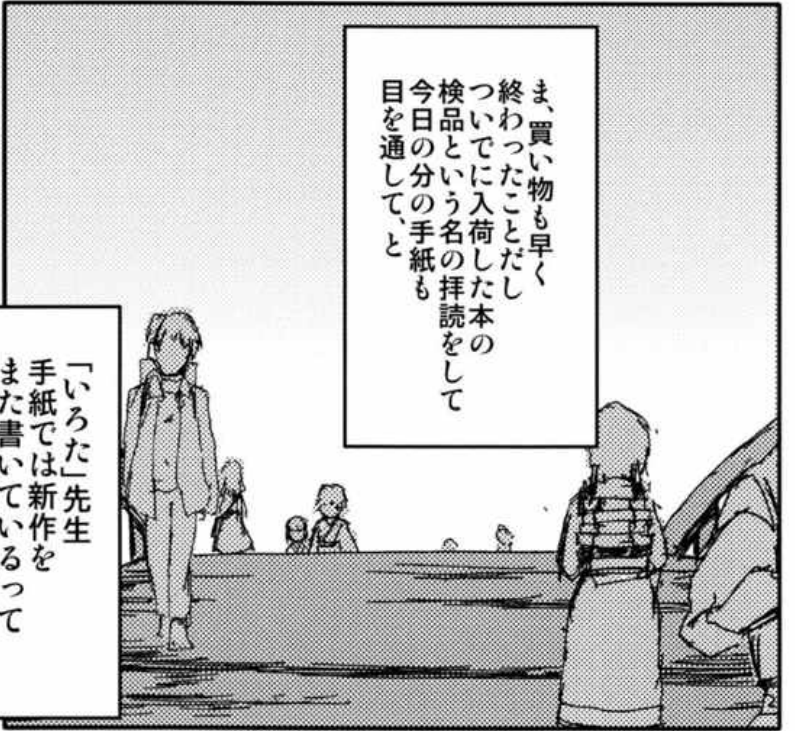








「いろた」先生
手紙では新作を
また書いてるって
言ってたし、期待に
夢と妄想と妄想と妄想が
膨らむわね



ま、買い物も早く
終わったことだし
ついでに入荷した本の
検品という名の拝読をして
今日の分の手紙も
目を通して、と



なんだろう
あの人…

?



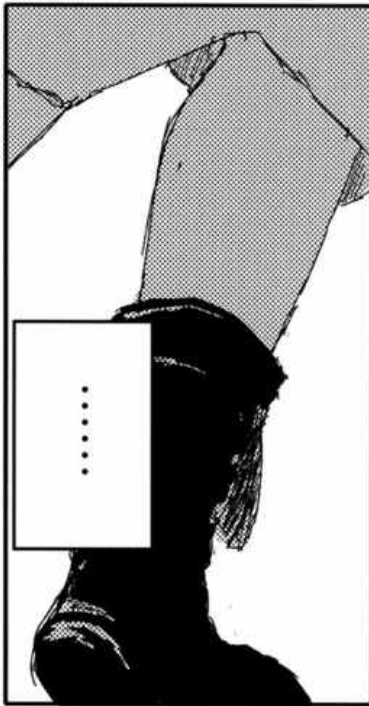
やばい幽霊でも
憑依してるん
じゃないかしら…?



な、なんだか
ずいぶん
暗いオーラが
見えるんだけど…



やばっ
目が合った…!



.....



触らぬ神に
なんとやら、ね



な、なんか
刃物持ち歩いてる
みたいだし危ない人？



つて
ちよつと?!

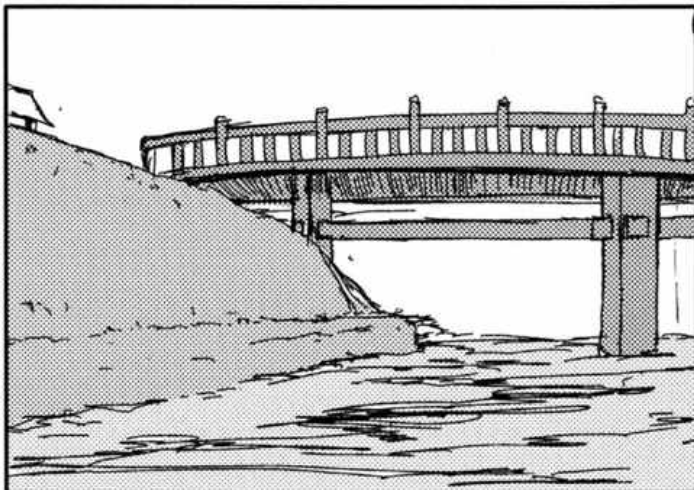


あの人、
どこかで
見たような…



あんな
何してるのよ!

死にたいの?!







阿求は
見た事ない？
こんな感じの容姿
だったんだけど

ない、と思う
刃物：多分短刀
だと思うけど、

そんなのいつも
持ち歩いてたら
目立つだろうし



そう、確か
これだったかな



その時
借りた本が
戻ってきてないって？

あまり
借りられない
本棚を見てたから…



ほら
ふた月前に
貸出した記録が
あったよ



そうだ
思い出した

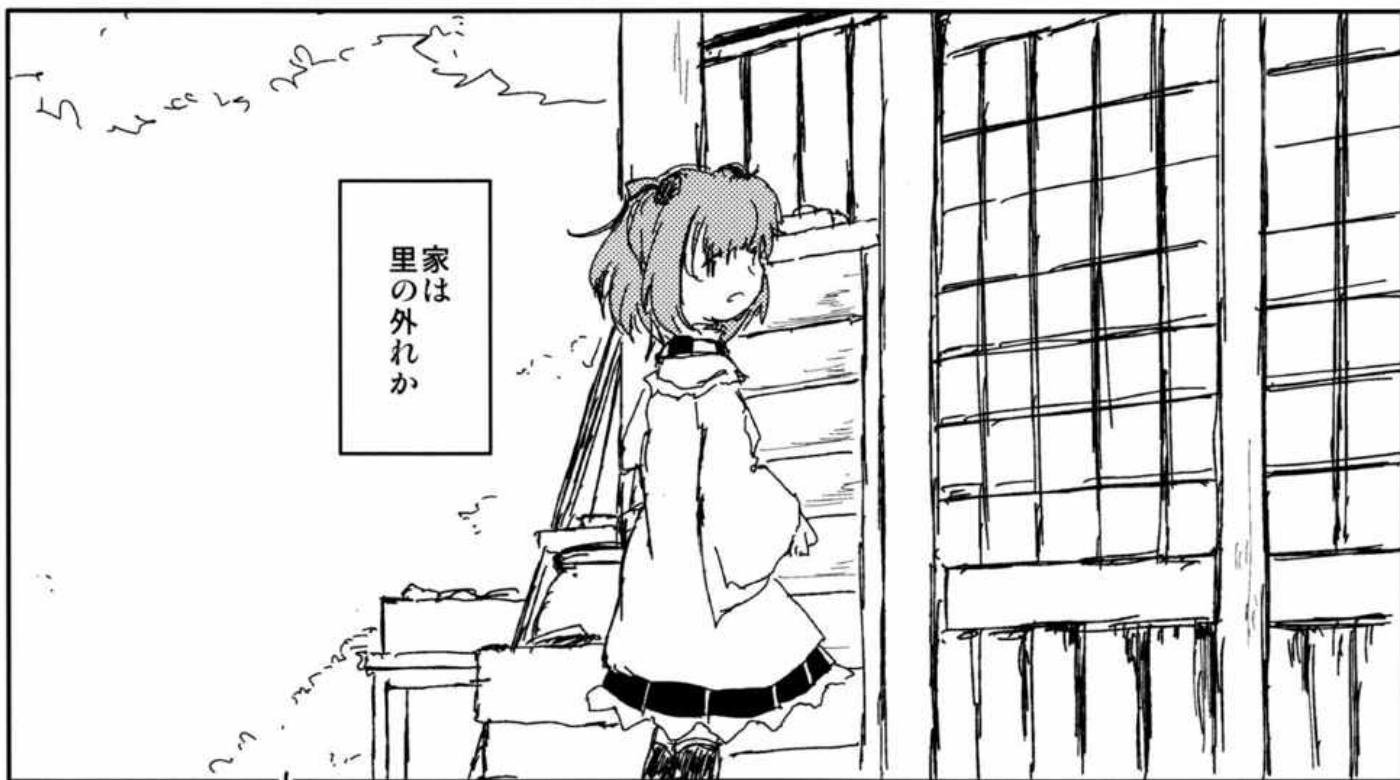
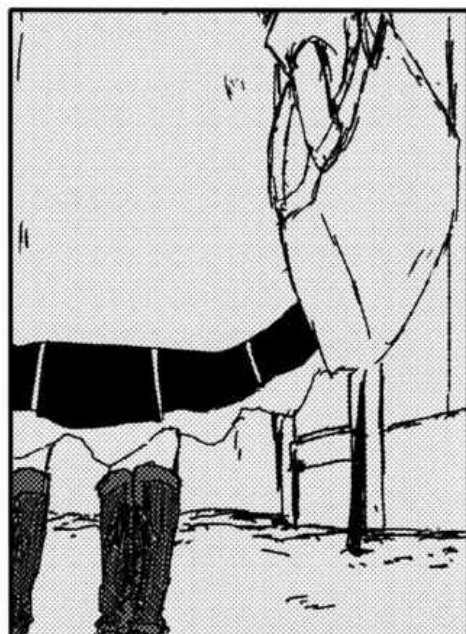
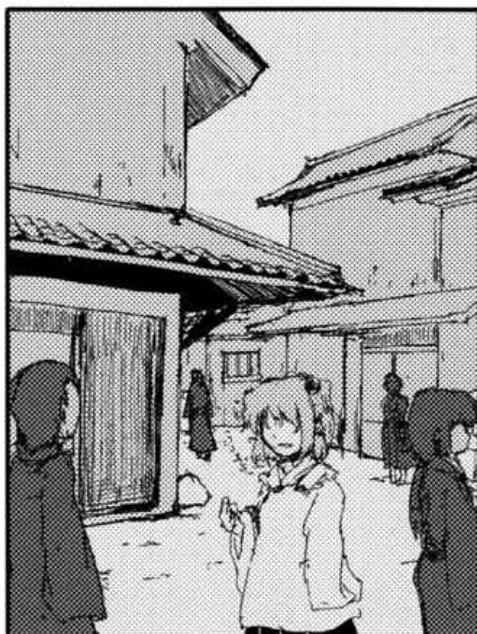
名前は「辰輔」
二冊借りて一冊は
返したんだけど
もう一冊はずっと延滞
したままだったんだ

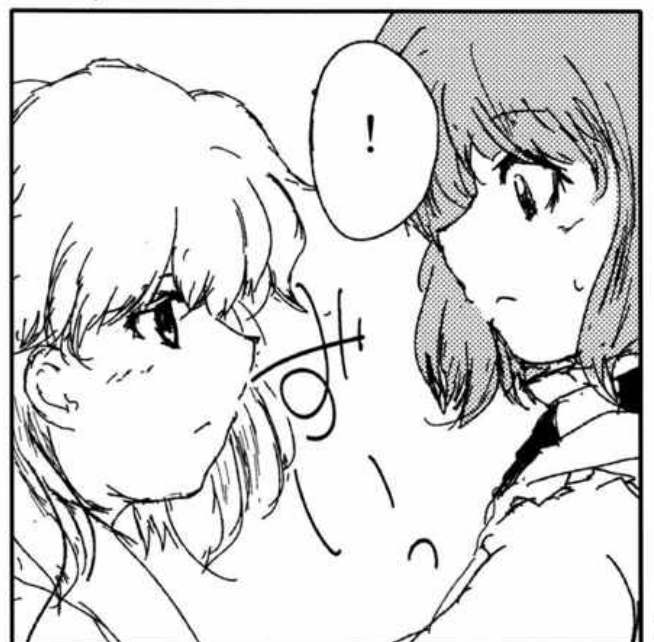


その短刀の男、
山で狐の妖怪でも
見たのかしら

心を冒され
錯乱することを
狐憑きと呼ぶそうよ











そういやあいつ、
少し前から様子が
変わったんだよな

前は大雑把で
快活な性格で
だったんだけど

狩猟で
どっかの山に
出かけてから
随分暗くな
つちまってるな

なんでも、
山で洞窟を見つけ
そこに入ろうとしたら
もう一人の自分を
見たとあって
ずいぶん悩んでな

ここ数日は
手紙届けに行っても
ずっと不在のままだし
少し心配
なんだよなあ…

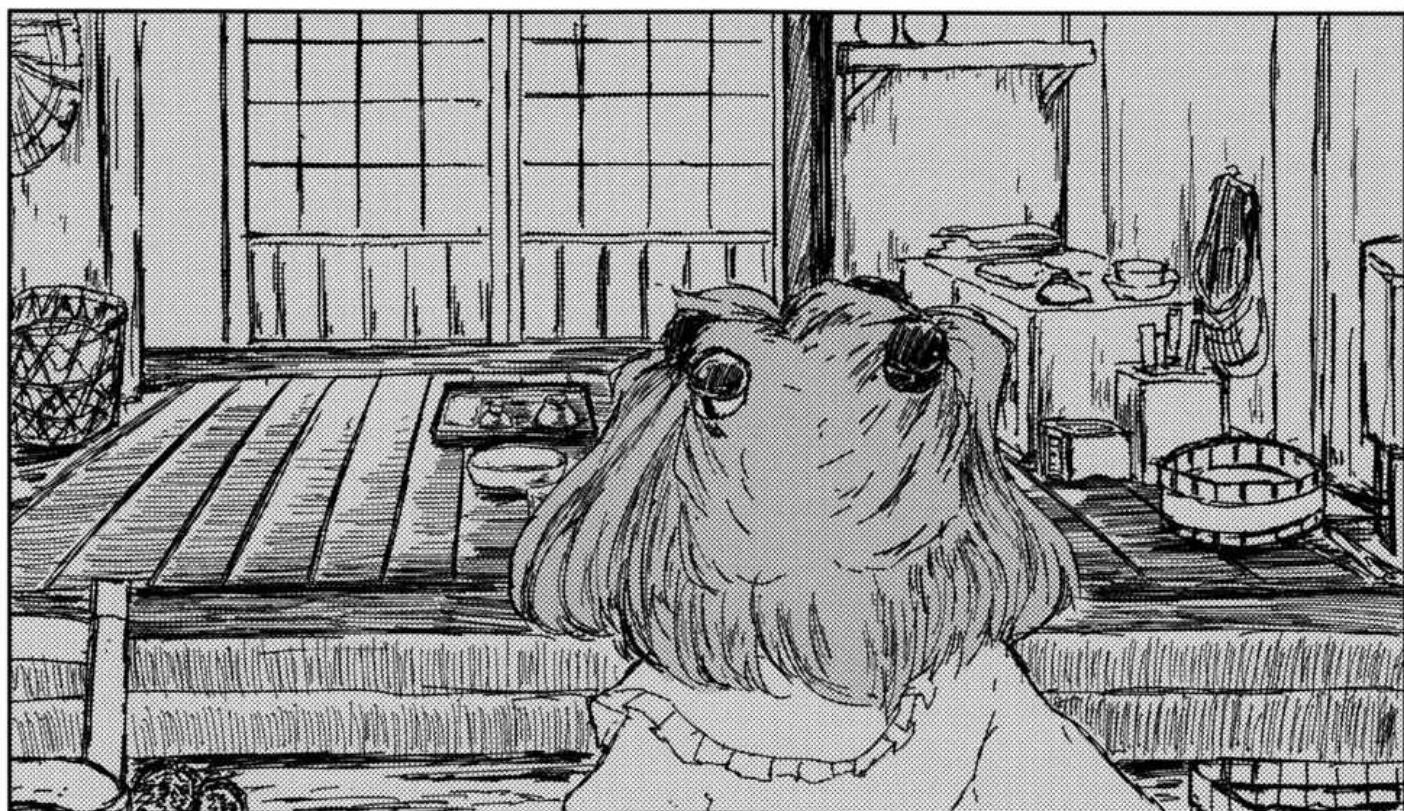
え？
さつき娘さんに
会いましたよ

そんなはず
あるもんか

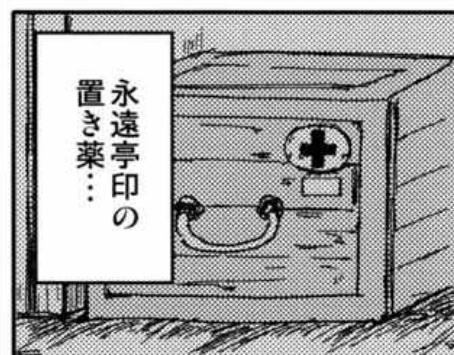
あいつ、娘どころか
結婚もしてない
独り者だからな

だったら
その家で見
た子供って
いうのは…

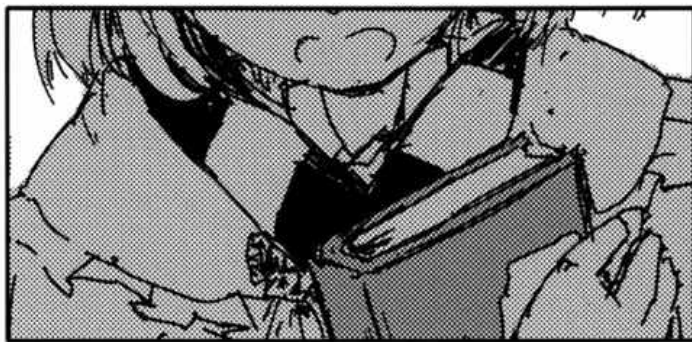
つて
お、おい！

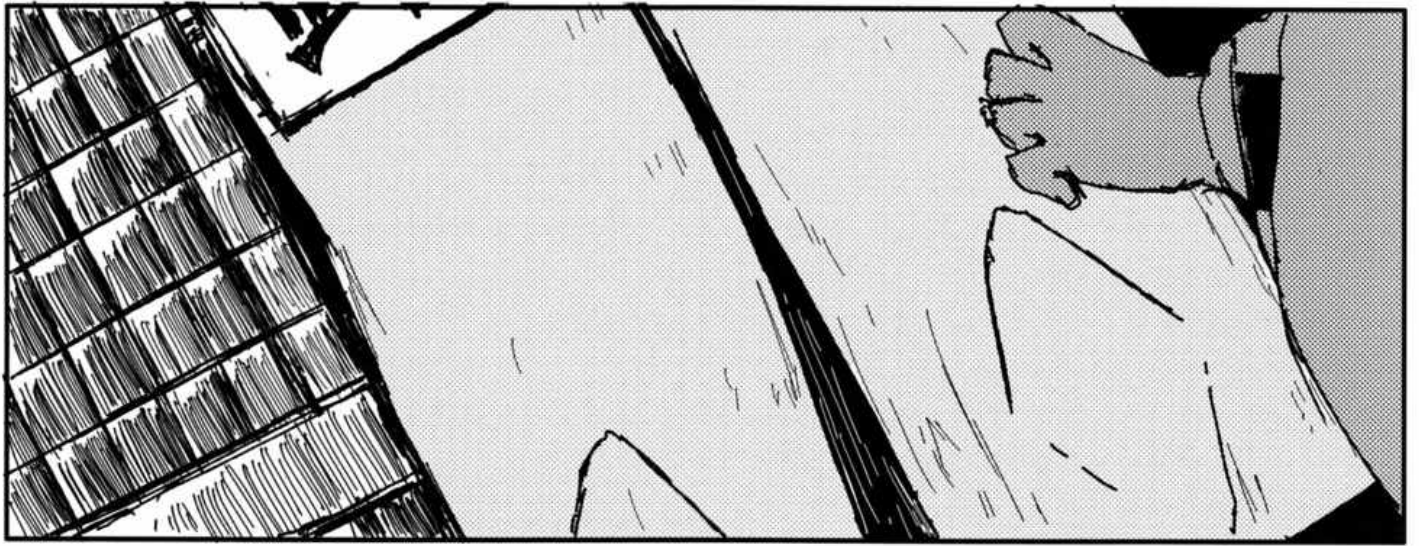


いったい
どうなって…



永遠亭印の
置き薬…





探してた本は
見つかったかい？







なつ



とん

?



ここ、
本がたくさんあって
気に入ったから
これから
私が本居小鈴に
なることにするわ

しばらくぶりに、
やっとな庵に、
戻ってこれたことだし
ずっと本の中で
待っていた甲斐が
あったわ



原因はこの
「影わずらい」の本で
わかったのに…

本が自分の意思で
手離せない!



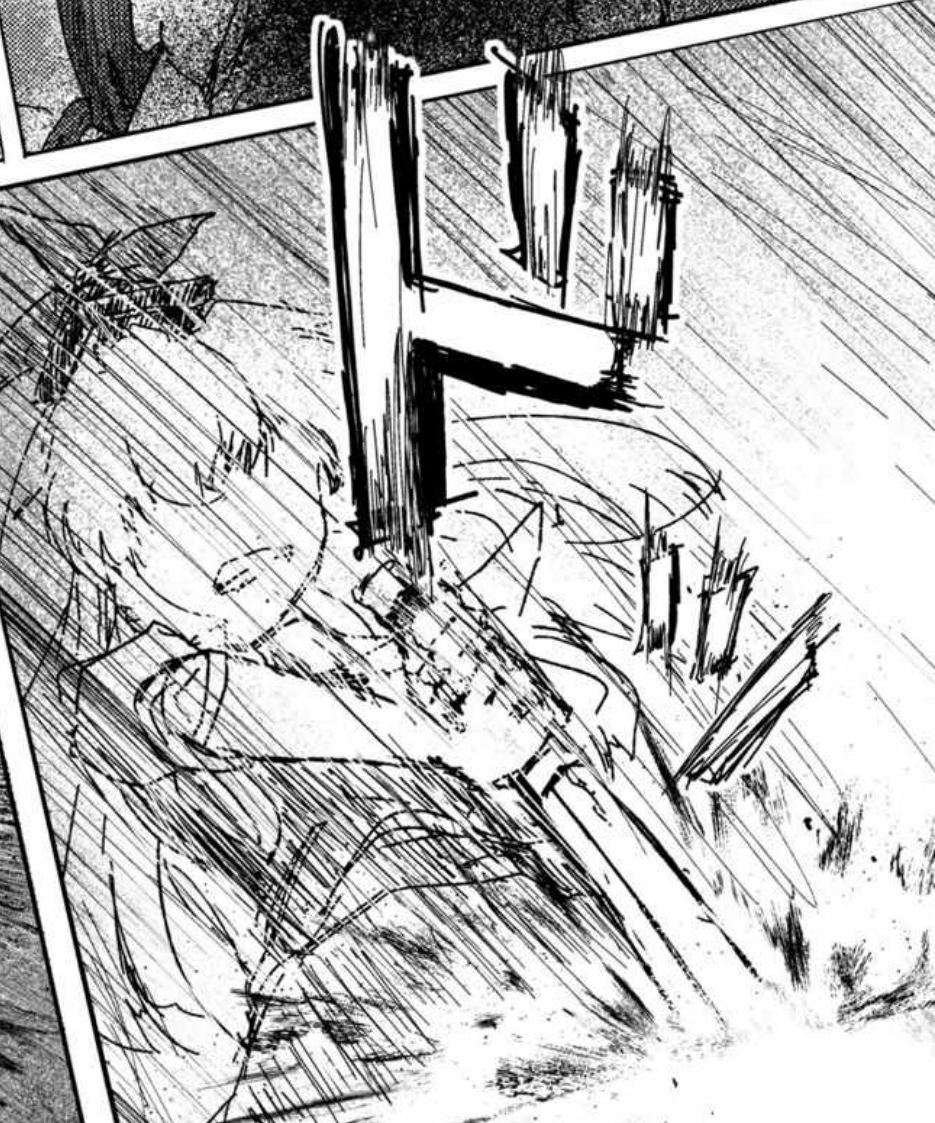
ドッベルゲンガーは
周りの人間とは
会話をしない

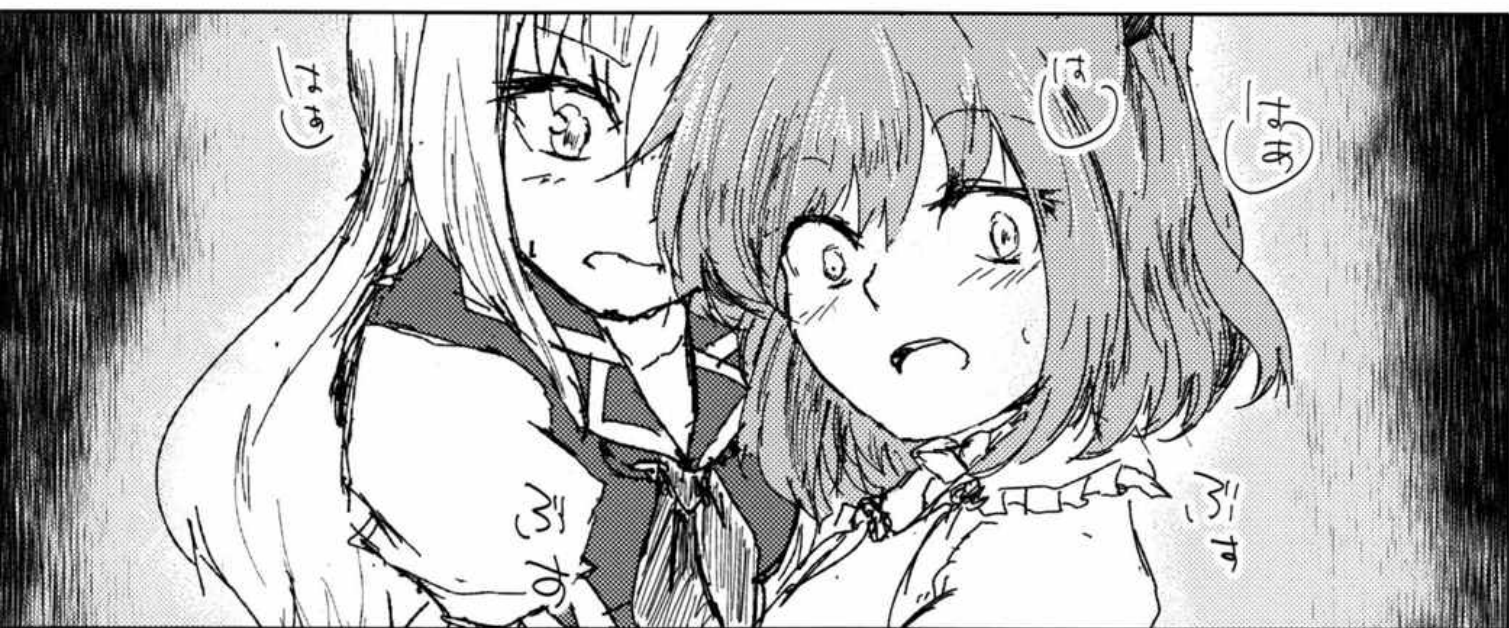


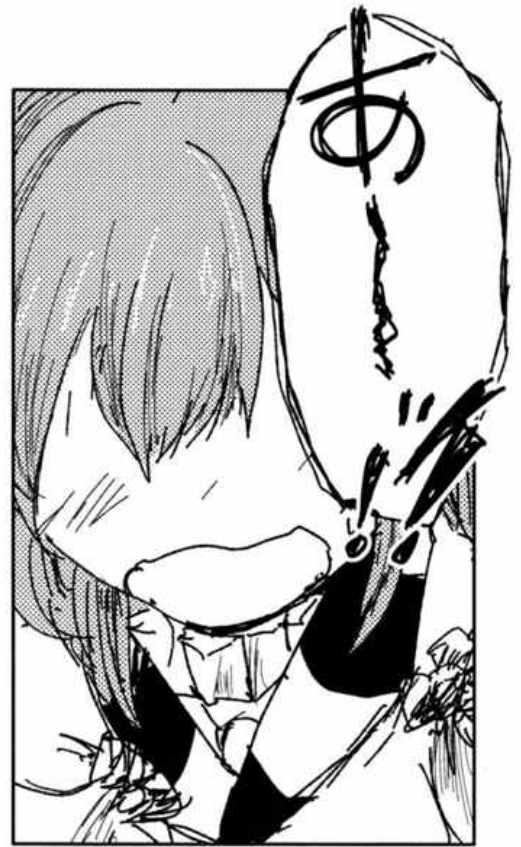
姿形は
そっくりだけど
中身は全くの別物

慧音先生?!

!









遺品だ

辰輔のな



その時は、見るからに
暗いオラが出てたし…
でも他の人には
彼が見えてなかった
みたいだし…

人里の往来で
刃物なんて
持ち歩いてるし…



あれ、でも
先生が持ってる
その刃物…



今朝、里の井戸で
彼の遺体と一緒に
見つかった

今日は一日中
阿求とその後処理に
奔走していたんだ



ここ数日
姿を見た者が
誰もいなくてな

少し前から
心を病んでいたらしく
幻覚幻聴で
塞ぎこんでたらしい

外傷も無かったから
自分から井戸に
落ちてしまった
可能性が高い

でも、私
確かに昼前に
橋で彼を見ましたよ！

ドツヘルゲンガーは
周囲の人間には
見えてなかったんだろう？

小鈴に
それが見えたのなら
千里眼の能力か
はたまた妖怪の
仲間入りということだ

先生が言うのと
笑えない冗談です

なににせよ
今回の騒ぎといい
店じゅうに爆弾を
置いているような物だぞ
もつと危機意識をだな…

だ、大丈夫ですよ
ここ霊夢さんや
慧音先生立寄り所
ですしおすし

それに
阿求だって…
そういえば先生
さっき、今日は
阿求と一緒にいたって…
私も一緒に
来たはずだ

言っただろう
阿求なら
さっきまでずっと
一緒に私の手伝いを
してくれたぞ

え？

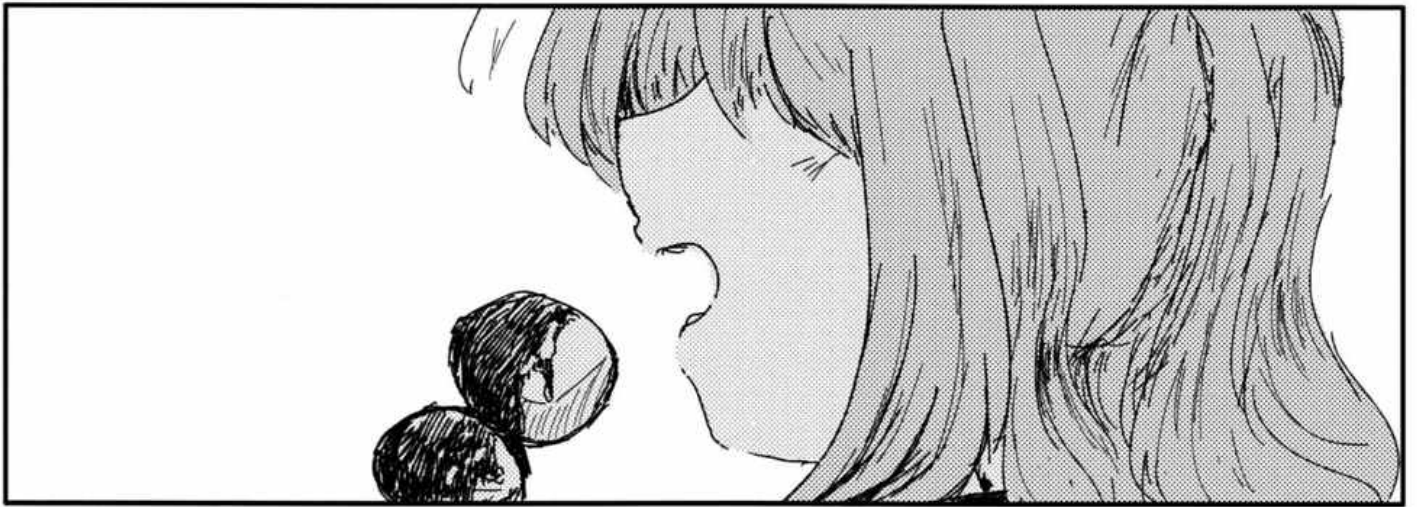
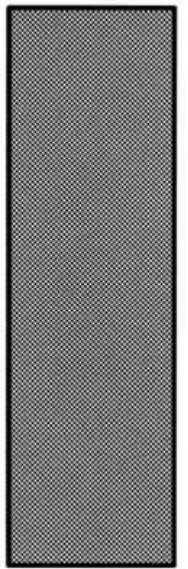
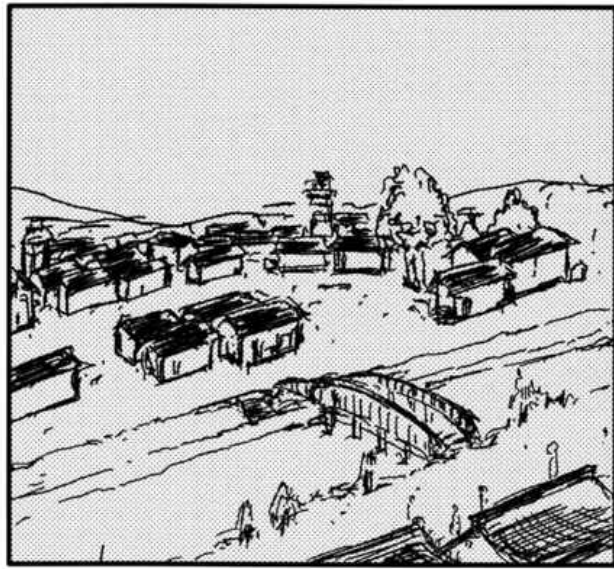
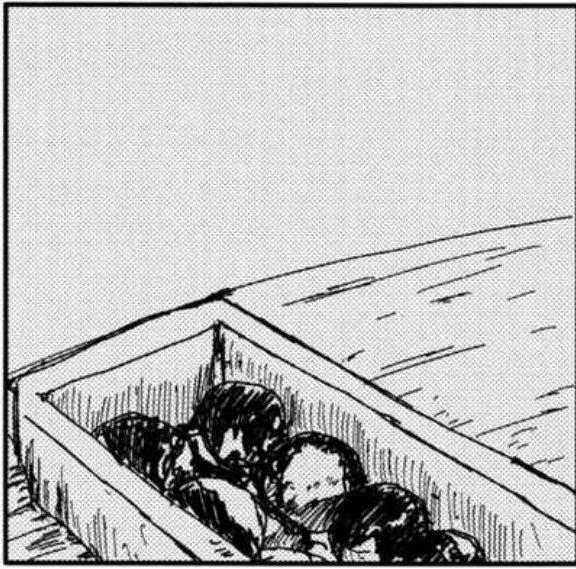
妖怪が絡んでるのなら
調査も必要だし
遺体が見つかった井戸も
しばらくは使わないよう
触れを出さないとい
やらない事が多いんだ

で、それに関して
依頼していた本を
借りに来たんだが

もちろん
用意はできているん
だろうな？

できてますとも！
ちよいと三十分くらい
待っていただければ

その間
甘い珈琲でも
どうぞ！



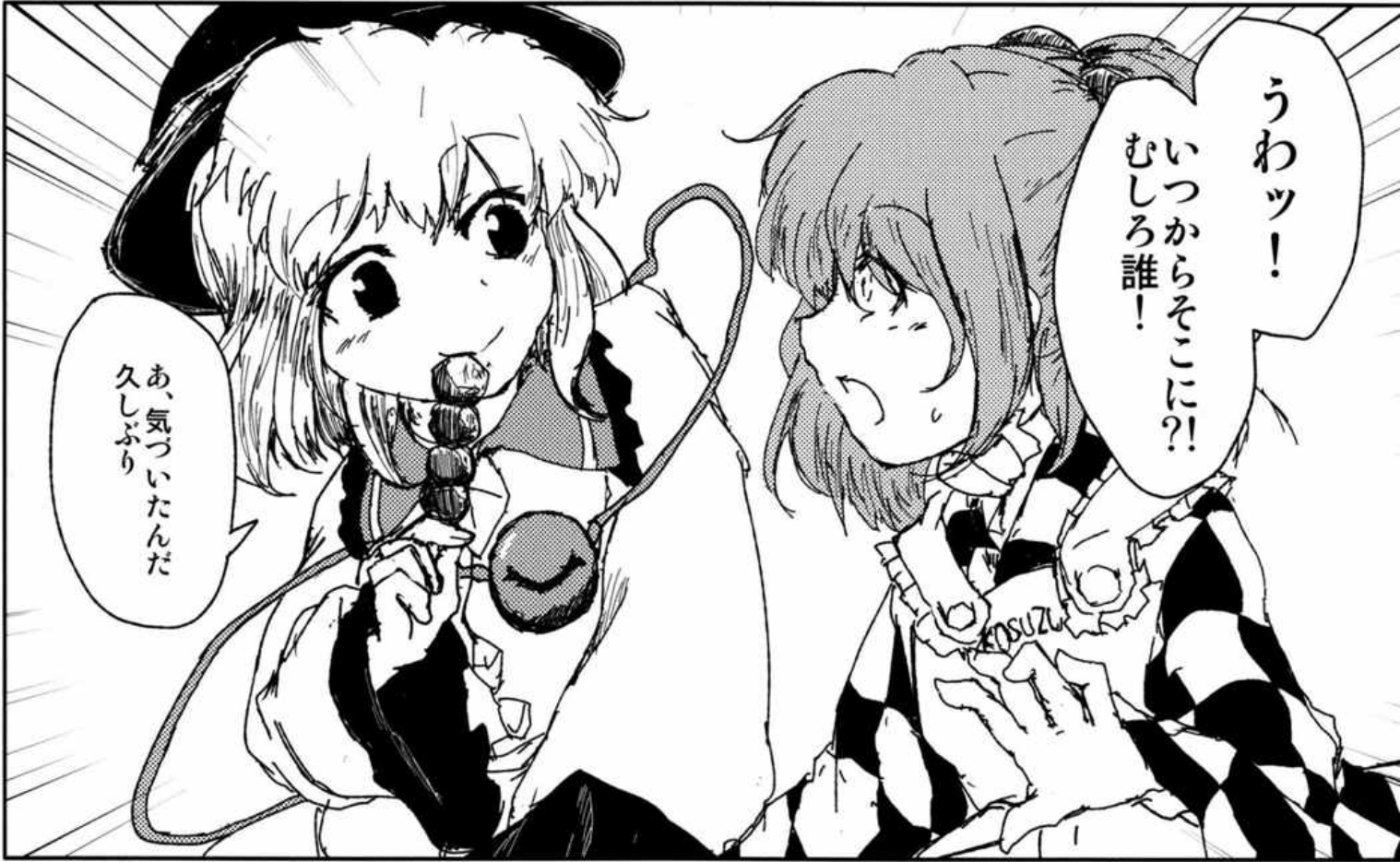
そつくりの
自分がなんなのか
原因を調べるために
「影わすらい」の本を
読んだが、改善はなかった

もつとも、あれは
妖怪語で書かれていた
わけではなかったから、
妖魔本つていうのは
ちよつと違うか

じゃあ妖魔本を
受け取る前に
阿求らしき人物や
橋の上で彼を
見れた私はなんぞや？

ほ、ほんとに千里眼なら、
目を閉じて琵琶でも
弾き語らなければ
いけないのかしら

ついでに
五巻巻いて



うわッ！

いつからそこに?!
むしろ誰！

あ、気づいたんだ
久しぶり

久しぶりも何も
あなたのこと
知らないわよ？

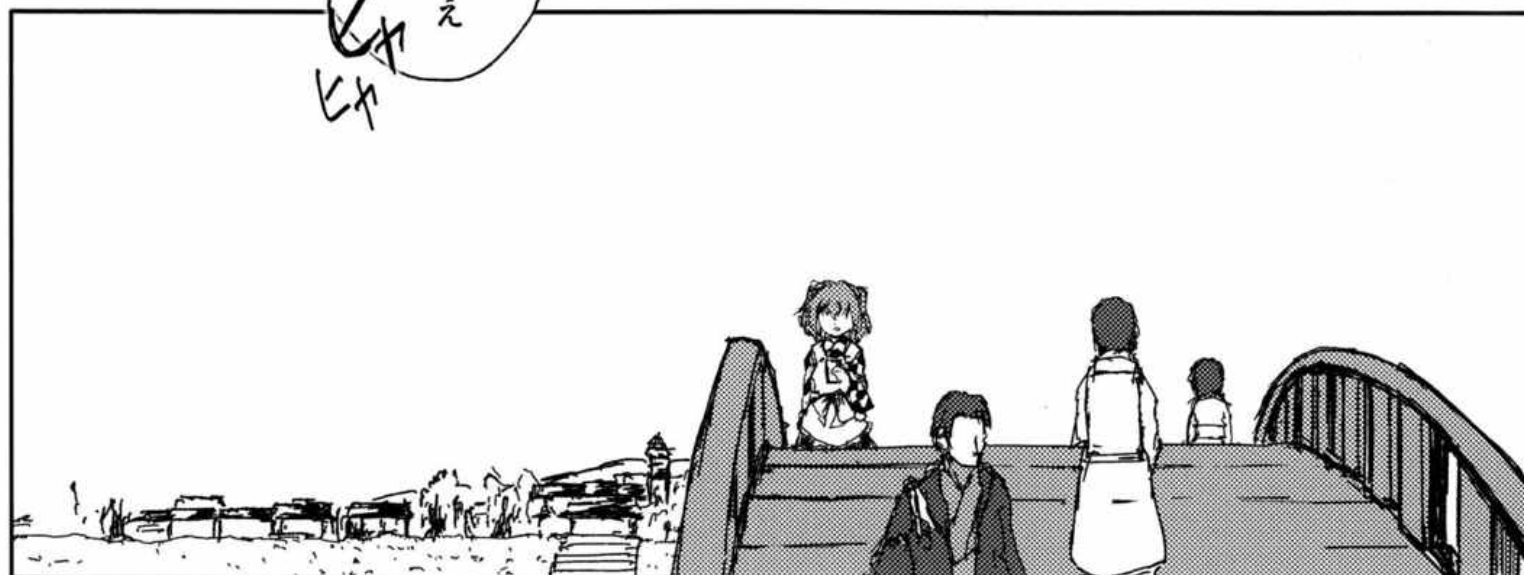
これで会うのは
四度目なんだけど
ま、しようがないか
あの時は飛び降りた
彼に気をとられてた
みたいだからね

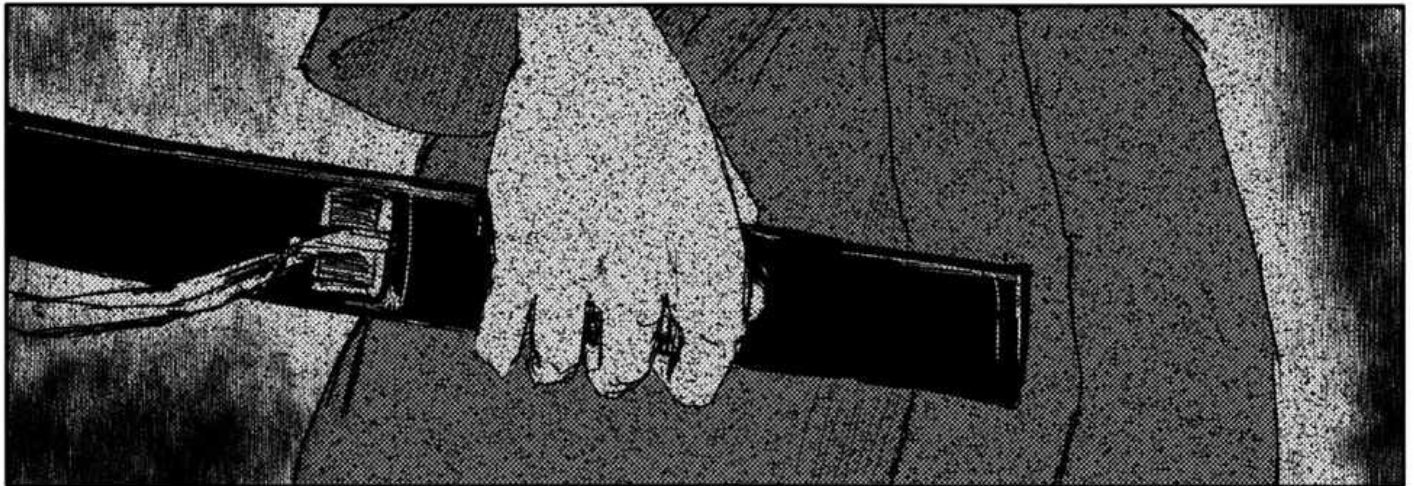
見てたのなら
止めてくれても
よかったじゃない？

いや、でも
鈴奈庵でも
あの空き家でも
私が見えてたみたいだし

面白い人間も
いるものなのね







A black and white halftone illustration showing the silhouettes of two people in a boat on a dark sea. The person on the right is wearing a hat and holding a long object, possibly a staff or a fishing rod. The sky is light and textured with halftone dots.

故人の魔除け
だったのね



あきやすすと聞いて
すっとんてきたんですけど
私の出番は？

こんにちは、矢乃倉です (◎□◎)
この度は手にとっていただき有難うございます。
修羅場中の寒い部屋で、電気ストーブがお亡くなりになりました。

小鈴本もこれで3冊目になりますが、あきゆすず分足りなくてほんとすみません。ストーリーが破綻しないようにカップリングを詰め込むのは、なかなか難しいですね。
いや、同人誌なんだから「こまけえこたあいいから、あきゆすずでちゅっちゅすればいいんだよ！」てのはわかってるんですが…。鈴奈庵2巻の発売が待ち遠しいです。

小鈴として書きたい話はこれで、出し尽くした感があるので次は、また別のキャラで新しいのを書きたいですね

それではまた次回、どこかでお会いしましょう。

「影わずらい」

発行日：2013/12/30

発行：砂屋工房

URL: <http://sunayaatelier.sakura.ne.jp/>

Mail: sunayakoubou@sunayaatelier.sakura.ne.jp

pixivID: 24154

原作：上海アリス幻楽団 様

印刷：サングループ

本作品は上海アリス幻楽団作品を元にした二次創作作品です
アップロード、無断転載、複製等は禁止です